



『八丈島に寄せて』



株式会社新生電気商会 代表取締役社長 烏井 公一

日本列島、島は大小数多くあるが、今回は業務で八丈島に渡る機会がありましたので、思いのまま記します。

2月下旬の早朝一番機のジェットで羽田空港から八丈島行きの便に乗りました。離陸して間もなく、巡航高度15,000ftほどでしょうか。眼下の大島、三宅島を眺めていると、早くも着陸体制に入る機内アナウンスがあり、飛行機の窓一杯に目的の八丈島全体が見えてきました。海上は風が強いのか、白波が立っている様子でした。

少し不安になりましたが、2つの山の谷間に向かって滑るように着陸。とにかく羽田から八丈島は近く、東京から290km(所要時間50分ほど)です。東京の亜熱帯区と呼ばれる八丈島は、伊豆諸島のなかの1つの島で、富士箱根伊豆国立公園に指定され、日本気象庁では火山活動度ランクCの活火山の島だそうです。

到着ロビーから屋外に出ましたが、予約していたレンタカー1台(品川ナンバーで、確かにここ八丈島は東京です)だけで歩行者も見当たりません。一瞬マスク(今、全世界規模で蔓延の新型コロナウイルスの感染予防には必需品)を外して深呼吸をした時の空気の美味しかったこと、格別がありました。

前日は雨模様でしたが、当日は晴れ曇り気温14℃、湿度50%と非常に快適でした。



空からの八丈島



幹線道路

八丈島についてはご存知の方も大勢いらっしゃると思いますが、「ひよっこりひょうたん島」(1964年NHK総合テレビで放送された人形劇)のモデルになった島です。島が瓢箪の形をしているためでしょう。また、石原裕次郎主演の日本映画「紅の翼」で一躍有名になった島です。

空港は滑走路の長さは2,000m、幅は45m。八丈島のほぼ中央にあり、2つの山と山の間にあります。外洋の孤島という事情から地形的にも風の変化が大きく霧も発生しやすい、天気が良くても離着陸の難しい国内屈指の空港だそうです。

2つの山と言うのは西の高さ854mの八丈富士、そして東の700mの三原山、共にハイキングコースに最適、時間があれば是非登りたい山です。

八丈島の人口はおよそ7,000人、面積は東京山手線の内側に匹敵します。

暖流である黒潮の影響で冬場の気温は約11℃、夏場は約26℃、年平均気温が約18℃、湿度80%と雨が多く、風が強い常春の地、八丈島。首都東京の避暑地、別荘地に最適のように思われます。

八丈島の地場産の食べ物としては「くさや」があります。近海で取れた青むろ鯵、トビウオを調理して秘伝の「くさや液」に漬けたものです。食欲を誘う匂いの魚料理ではありませんが、一度食すると病みつきになるほど独特的の美味しさがあり、芋焼酎と良く合う肴だと思います。

八丈島の文化は日本海流である黒潮の流れの影響を受け、中国大陸から数多くの漂流者や漂着物が流れ着いてきたといいます。そのどれも島の人たちは受け入れてきた歴史が窺えました。

流刑としても同様で、一例に、豊臣秀吉の五大老の一人である宇喜田秀家は、関ヶ原の戦いで西軍に参じて敗れました。3年にわたる逃走の果てに徳川家康によって身柄を拘束、八丈島に流刑となりました。明治時代まで赦免になることのなかった宇喜田一族を、八丈島の人たちは温かく見守り続けました。



八丈富士



八丈島の街頭防犯カメラ

空港の標高が92mで、島の住民の生活拠点を海岸線から相当陸地に上がった高い所に置いているということ、これは大きな地震、津波災害から守るためです。

八丈島は犯罪の少ない島ですが、住民の防災、防犯の意識は非常に高く、訪れる観光客の安全、そして安心して八丈島で過ごして頂けるよう、街頭防犯カメラの設置等色々な工夫が感じられた3時間の八丈島探訪でした。

八丈島には日本を代表する美しい黄金色の「黄八丈」の機織りがあります。八丈島空港売店の高価な黄八丈織物の帯を横目で見ながら、航路羽田へ向かったのでした。